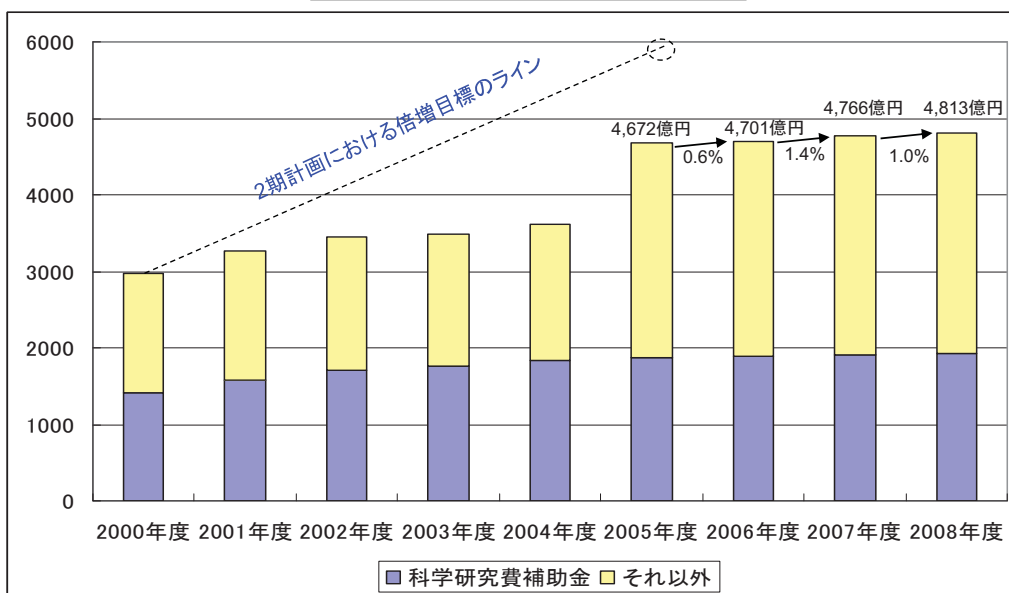


V 章関連

競争的資金①

○ 競争的資金の総額は毎年1%程度の伸び率で増加しているが、第2期基本計画で掲げられた競争的資金の目標値には達していない。

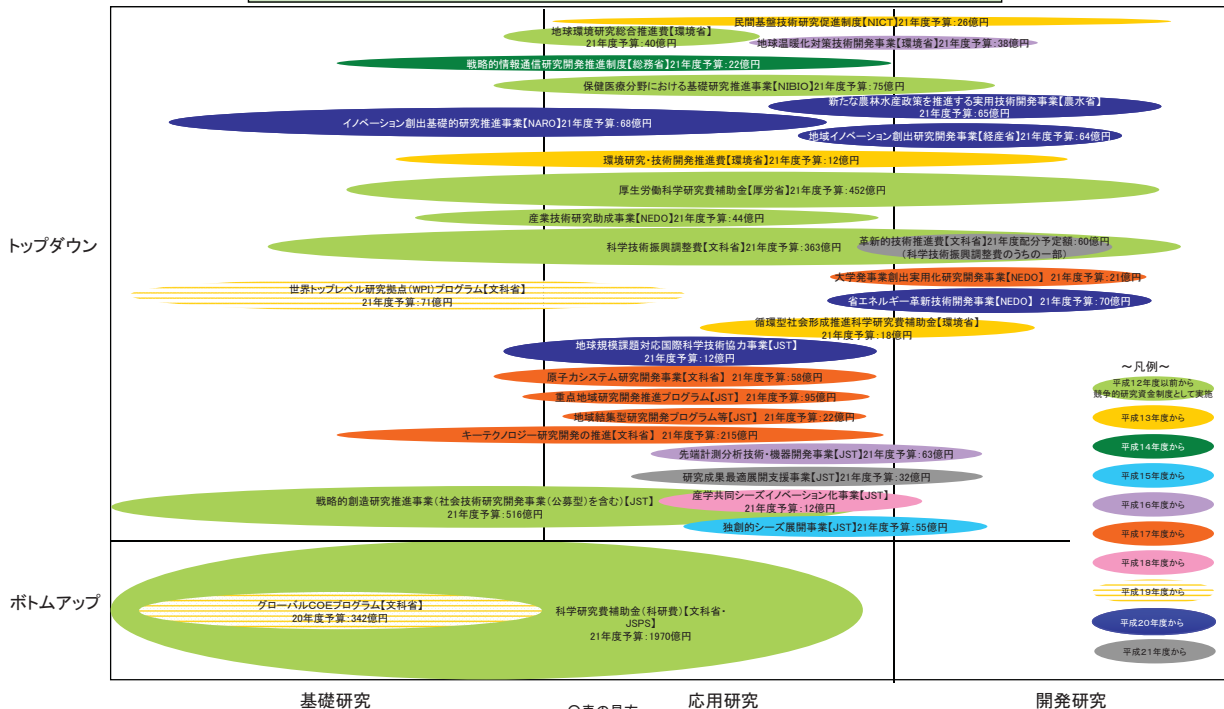
競争的資金総額の推移(当初予算額)



注：2005年度には、既存制度の機能拡充により多数の制度が競争的資金に組み入れられた。

競争的資金②

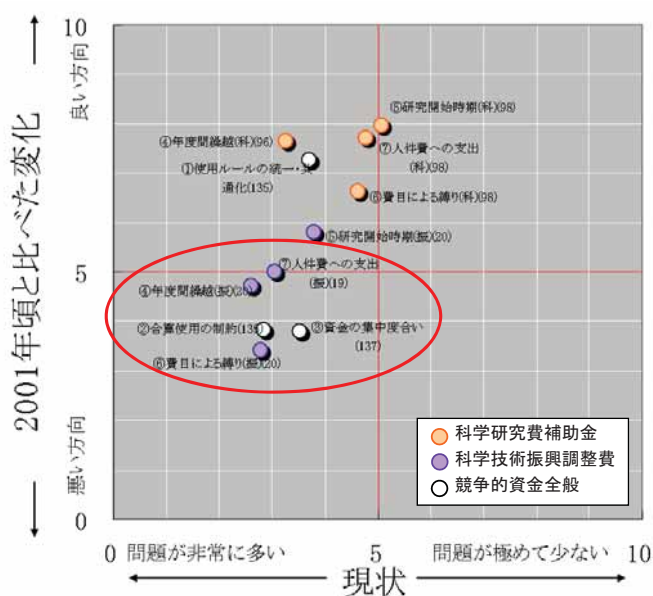
平成21年度 競争的資金制度マップ（予算規模10億円以上・28制度）



○表の見方
 ・平成21年度における予算規模が10億円以上の競争的資金28制度について、ボトムアップ・トップダウンと基礎研究・応用研究・開発研究の2×3の6区分のいずれに位置するかを各省等に照会して作成。
 ・トップダウンは政策的に分野や課題等を指定して募集するタイプを指すが、その上で研究者の自由な提案を募るものを含む。
 ・区分内における上下の位置は、ボトムアップ・トップダウンの強弱を示すものではない。
 ・基礎研究等の定義は総務省「科学技術研究調査報告」等に準じる。
 ・予算額は四捨五入により1億円単位で表示。
 出典：内閣府作成

競争的資金③

競争的資金の使いやすさ



※ 日本の代表的な研究者・有識者や第一線級の研究者に対して科学技術の状況を尋ねたもの。
 ※ (科): 科学研究費補助金を前提とした回答、(振): 科学技術振興調整費を前提とした回答。
 ※ ()内の数字は回答者数を示す。
 出典: 文部科学省 科学技術政策研究所 NISTEP REPORT No.107「科学技術の状況に係る総合的意識調査(定点調査2007)」

海外の科学技術コミュニケーションに関する事例①

○海外において、対象、形態、内容の異なる様々な取組が進められている。



サイエンスカフェ

Dana Centre サイエンスカフェ

Dana Centreは、Science Museum 内に設立されたサイエンスカフェを企画、運営する組織。

<特長>

- ・参加無料
- ・18～45歳の大人を対象
- ・科学的事実を伝えるのではなく、社会的、倫理的な問題を提示することを目的とする。
- ・二者択一質問などに、インターネットを通じて参加可能。



出典：内閣府「効果的な理解増進事業の実施のための手法開発に関する調査」成果報告（平成18年度）を基に作成

サイエンスフェスティバル

英国科学協会 The British Science Festival

<概要>

- ・1831年から毎年開催（2000年にサイエンスフェスティバルに改名）
- ・毎年9月に1週間
- ・英国各都市で開催
- ・延べ入場者数17万人（2006年実績）
- ・大規模な広報活動を展開



出典：公立ほこだて未来大学 美馬のゆり（チームリーダー）
「町おこし型」科学技術理解増進活動の調査研究報告書（平成19年度）

実験講座

王立研究所 クリスマス・レクチャー

毎年クリスマス時期のロンドンで、英国王立研究所が開催する青少年向けの科学実験講座。マイケル・ファラデー（1791～1867）らが、子供たちに贈る科学のクリスマス・プレゼントとして始めたもの。1825年に始まり、現在まで180回以上続く。

出典：HPから内閣府作成



海外の科学技術コミュニケーションに関する事例②



トップ研究者たちによる「トップセールス」活動への支援

英国科学者団体の最高峰ロイヤル・ソサエティ（王立協会）では、ファンディングを受けるフェローに科学技術コミュニケーション活動を義務付け。その際に、研究費の一定枠をコミュニケーションに充てるというような単純なものではなく、実践的なトレーニング講座を受講できるようにしたり、実際のコミュニケーション活動でもサポートを行っている。

■王立協会トレーニング講座

- コミュニケーション・スキル・コース：
研究者自身の研究について、専門用語を用いずに一般の人々とコミュニケーションを取るスキルを学ぶ。
- メディア・トレーニング・コース
テレビやラジオのインタビューに同行し、メディアとのコミュニケーションに必要なスキルを学ぶ。

■国会議員等・科学者ペアリング制度

- 国会議員（MP）と科学者が1対1でペアを組み、相互理解を深めるユニークな試み。科学者が国会議員に一週間同行して議員活動を実体験（シャドウイング）したり、逆に、国会議員が研究所を訪問することを通じて、トップレベルの科学技術コミュニケーションの深化を目指すもの。狂牛病が大きな社会問題となったのを契機に、2001年から開始された。非常に人気が高く、年間20人程度の応募枠に対し、これを越える希望が国会議員側から集まっている。
- 2006年からは、欧州議会（MEP）でも同制度が開始され、7組が活動している。



Key characteristics of the MP-Scientist Pairing Scheme 2001-2005

Table 1
Number of pairs and geographical location

Number of pairs	2001	2002	2003	2004	2005
England	4	11	14	20	18
Scotland	1	0	6	3	6
Wales	1	2	2	2	1
Northern Ireland	0	1	0	0	0

* One scientist was paired with two MPs
** One MP was paired with two scientists

出典：ロイヤル・ソサエティHP等から作成
<http://www.royalsoc.ac.uk/>

海外の科学技術コミュニケーションに関する事例③



サイエンスカフェ

バー・ドゥ・シヤンス

パリでのフランス物理学会年会でイベントとして1997年に企画されたのをきっかけに、毎月開催されている。物理学会を中心とし、大学関係者やジャーナリストらとともに運営されている。メインスピーカーは複数人であることが多い。インターネットテレビでの放映などの工夫がある。テーマは、環境問題など具体的なものから、数学上の無限など抽象的なものまで広く扱う。

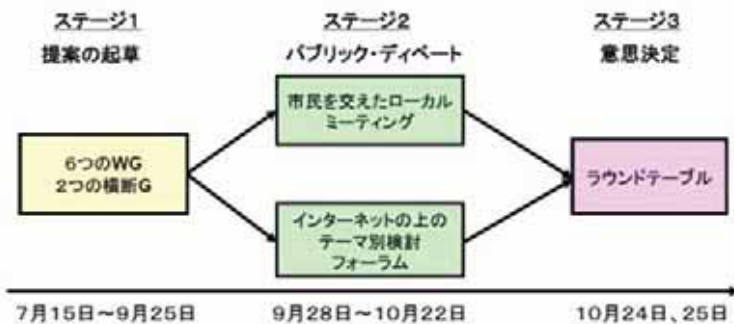


出典：中村征樹「科学技術社会論研究 第5号」,p31-43(2008年6月)を基に作成

政策への国民参加

環境グルネル会議

政府は2007年に環境グルネル会議を開催し、環境政策についての議論を図のような3つのステージに分けて、4カ月にわたって展開した。各ステージにおいて市民団体(NGO,NPO)、国、労働組合、企業経営者、地方公共団体等のステークホルダーと専門家が議論を行い、ステージ3でまとめられた提言書の内容は、法律や予算にも反映された。



特に、パブリック・ディベートを実施したステージ2においては、19の都市で地域のステークホルダーを交えた地域会合を開催したり、インターネットを通じてパブリックコメントを収集したり、チャットなどを活用して担当閣僚と市民との直接対話を実施したりするなど、幅広い取組が展開された。

出典：研究・技術計画学会 年次学術大会講演要旨集(2009年10月)
津田博司、永野博「フランスにおけるステークホルダー参加型科学技術・イノベーション政策の決定プロセスと日本へのインプリケーション」を基に作成

海外の科学技術コミュニケーションに関する事例④



2009科学年「研究探索ドイツ」

建国60周年及びベルリンの壁崩壊20周年を記念し、シャヴァン連邦教育研究相は2009年1月、ベルリンの自然史博物館において、通年イベントである「研究探検ドイツ」の開幕を宣言。下記の「サイエンス・エクスプレス」や「探索バス」などの一連のイベントを年間を通じて実施。

サイエンス・エクスプレス

ドイツの最先端技術を紹介する移動展覧会。マックスプランク協会企画。12両の車両からなり、車両ごとに宇宙論から素粒子物理学、進化まで、様々な科学的テーマを展示。21世紀に直面するであろう諸問題を解決するための最新技術が紹介された。2009年5月～11月の間、ドイツ国内60都市を巡回。



探索バス

200以上のパートナー機関が開催するイベントを訪れてスタンプを集めることができる。最低五つスタンプを集めると、「研究探検講義」を受けることができる。



サイエンス・エクスプレス 車両内部の様子

出典：HP等から内閣府にて作成